

令和8年
9/6
日

アナフィラキシー親子 のための懇談会



子どもの食物アレルギー、重い症状のアナフィラキシーとなる子どもたちが増えています。また木の実類のアレルギーが急増して大きな課題となっています。食物アレルギー・アナフィラキシーは治せるのか、「エピペン®」や「ネフィー®」のこと、学校や保育所での対応、加工食品のアレルギー表示と外食・中食での対応など心配は絶えません。



懇談会ではアレルギーの国の中心拠点施設、国立成育医療研究センター・アレルギーセンター長の福家辰樹先生が正しい病態理解や適切な対応について講演し、参加者の疑問や不安にこたえる質疑を行います。時間が許す範囲で個別の相談も行います。お子さんのアレルギーで困っている方、関心がある方の参加をお待ちしています。※資料を多数用意しますのでエコバッグをお持ちください。

日時：令和8年9月6日(日) 13:00～16:00

会場：横浜情報文化センター・ホール（情文ホール）

みなとみらい線「日本大通り駅」3番 情文センター口直結

定員：200名 参加費：無料 託児：先着予約定員10人

※1歳～就学前のお子様

申込：8月1日(土)～右のQRコードから ※申込は母の会HP「問い合わせ」へ

お申し込みはこちら



(定員に達し次第締め切り)

—— 内容 ——

● **オープニング：NPO法人アレルギーを考える母の会代表 園部 まり子**

「ちゃんと知れば怖くない」

● **講演：国立成育医療研究センター・アレルギーセンター長 福家 辰樹先生**

「食物アレルギーは重症でも『治る』を目標にできる」

● **質疑**



講師：福家 辰樹先生 / 国立成育医療研究センター・アレルギーセンター長

1998年、浜松医科大学卒。同大学医学部講師、国立成育医療研究センターで総合アレルギー科診療部長などを歴任し現職に至る。医学博士、日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会指導医。食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、小児免疫など幅広くアレルギー疾患の診療にあたる。丁寧で優しい診療スタイルと臨床力に患者（保護者）からの信頼も厚い。

国の中心拠点施設の責任者として「一般医療機関のためのナッツ負荷試験プロトコル開発と普及」や「給食等における残留抗原へのアレルギー誘発確率の解明」などの研究にも取り組んでいる。



主催 NPO法人アレルギーを考える母の会

＜問い合わせ・託児申込＞ アレルギーを考える母の会HP「問い合わせ」からメールで

後援：神奈川県、神奈川県教育委員会

ニッポンハム食の未来財団・地域づくり団体全国協議会助成事業